

## 林文子先生を偲んで

前越 久

私は林先生と同じ時期に本学に赴任しました。爾来、林先生が定年により本学を御退官になるまでの10年間大変お世話になりました。林先生と私とは、共通授業科目を担当していた関係上、常に連絡を密にする必要があったこともあり、よく先生の部屋にお邪魔したり、私の部屋に来られたりしました。コツコツと廊下で足音が聞え、少しドアをあけて「前越先生」と声をかけられる。かなり大きな声なので廊下中響いていたものと思われま。先生は事務掛に居られようが、何処かの廊下に居られようが、所在はいつもはっきりしていました。遠くからでも林先生のお元気な声が轟いていたからです。私が夜遅くまで部屋で仕事をしていると、「まだ頑張ってるの」といって、おにぎりやアンパンなどを差し入れて下さったことも屢々ありました。これらを御馳走になりながら、玉木先生、高橋先生、野辺地先生など林先生の先生のお話をよく伺いました。いつも御自分の歩んでこられた生涯が、良き師に恵まれた人生であったことを繰り返しお話になっておられたことを思い出します。全国10校の国立医療技術短期大学部の診療放射線技術学科教授の内、女性の教授は林先生がお一人であったろうと思います。私が学会に出張して、他大学の先生と話をするときなど、「林先生はお元気ですか」とよく聞かれたものでした。それだけ全国的にも有名な先生でありました。

先生は、昭和61、62年度に学科主任を務められ、何時も正当論に徹して「ピシャリ」と事をすすめられました。従って「これは林先生が主任の時残されたものです」と言えるものを幾つか上げることができます。良いと判断されたことは、どしどしおしすすめられ、少々強引なようにも見えたものも、今考えると林先生でなければできなかつたと思われることばかりです。世話好きで、人情味豊かな先生であったと思います。

あの気丈な先生が病床に臥されたことを知り、愛知県がんセンターにお見舞いに行つてほんの1～2週間も経たないうちに、旅立たれてしまいました。アツというまにと言う表現がぴったりします。まだいくつもやり残されたことがあつたろうとお察ししています。とても林先生の真似はできませんが、私共一同、力を合わせて診療放射線技術学科を守っていきたいと思つております。先生のご冥福を衷心よりお祈りいたします。

(名古屋大学医療技術短期大学部教授・診療放射線技術学科)